

# 研究計画「ちば夢プラン VOL. 1」





## 1 次期研究計画の策定にあたって

千葉県学校事務研究協議会(以下、「千事研」)は、「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を使命(ミッション)として、「教育が生きる学校事務」の具現化を目指し、研究を推進してきました。令和元年度までの第5次中期研究計画では、「組織開発」「人材育成」を柱として研究し、その成果として、学校運営組織の活性化のための諸規定整備や、事務職員の資質能力自己評価表の活用などが各地区に広がっています。

課題としては、事務機能の強化・充実や、職務内容の明確化、学校事務を総括する立場としての校務分掌への位置付けなど、学校経営に参画する体制をさらに整えるとともに、その検証が必要であると考えます。また、学校事務をつかさどる職務である事務職員のマネジメント能力の育成や専門性の向上、リーダーシップ力を備え高めていくための人材育成やキャリア形成の在り方についても、さらに追究が必要であると考えます。

千葉県では、令和2年2月に第3期千葉県教育振興基本計画が策定され、次の4つの基本目標が定められました。また、この計画をより実効性のあるものとするために、多様な主体と連携、協働していく体制づくりに努めるとされています。

### 4つの基本目標

<div style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 2px; border-radius: 10px; display: inline-block;"><b>基本目標 1 子供</b></div> <p>ちばの教育の力で、 志を持ち、 未来を切り拓く、 ちばの子供を育てる</p> 	<div style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 2px; border-radius: 10px; display: inline-block;"><b>基本目標 2 学校</b></div> <p>ちばの教育の力で、 「自信」と「安心」を育む 学校をつくる</p> 	<div style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 2px; border-radius: 10px; display: inline-block;"><b>基本目標 3 家庭・地域</b></div> <p>ちばの教育の力で、 家庭と地域の絆を深め、 全ての人が活躍できる 環境を整える</p> 	<div style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 2px; border-radius: 10px; display: inline-block;"><b>基本目標 4 県民</b></div> <p>ちばの教育の力で、 世界を舞台に活躍する 人材を育成し、 「楽しい」「喜び」に 満ちた豊かな社会を創る</p> 
--	---	--	---

(第3期千葉県教育振興基本計画リーフレットより抜粋)

子どもが、これからの時代を生き抜く力を育成し、社会や地域が抱える様々な課題を解決していくためにも、学校・家庭・地域と教育に関わる全ての主体が当事者意識を醸成していき、子どもの学びを考える熟議(熟慮と議論)が必要であると考えます。

学校・家庭・地域が一体となり、学校運営組織をさらに活性化するためには、組織マネジメントを生かし、学校の課題解決や事務機能の強化を図ることが必要であり、学校がチームとしての組織力を向上させることが重要です。そのためには、学校と地域を結ぶ役割が重要となります。学校事務をつかさどる職として事務職員がその役割を担い、チーム学校の一員として専門性を生かすことで、子どもの豊かな学びや育ちを支援することができる考えます。

また、目指す事務職員像を具現化するためには、目標や目的を明確にし、自ら学ぶ意識・意欲をもち、計画的に資質能力を向上させることが重要です。

新たな研究計画では、第5次中期研究計画までの成果と課題を受け、ビジョン達成に向け戦略を構築し、学校組織の活性化や共同実施、地域を担う人材育成等について研究を進めていく必要があると考えます。

## 2 研究計画「ちば夢プラン」(概要)

地域とともにある学校において学校・家庭・地域との連携、協働は重要です。地域協働の必要性については、国の第3期教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定)においては、2022年度までに「全ての公立学校において学校運営協議会制度が導入されること」、「全ての小中学校区において地域学校協働活動が推進されること」を目指していると示されています。

子どもが、これからの厳しい時代を生き抜く力を育み、成長するためにも、学校・家庭・地域と教育に関わる全ての主体が、子どもの学びや育ちを考え共有することが必要であると考えます。学校は、子どもが豊かな人生を送ることができるよう力を養う場であるだけでなく、地

域コミュニティの拠点として、地域の将来を担う人材の育成、地域を活性化していく役割が求められ、家庭や地域には実生活・実社会において体験的・探究的に学習をして、子どもの学びを豊かにしていく役割が求められています。

千事研では、学校・家庭・地域が目指す子ども像を共有するとともに、それぞれの役割を明確化し連携することが重要であると考えます。子どもの育ちや学びの環境を一体となって創造し実現するための研究を推進します。そのため、地域で子どもを育み、自己肯定感や自己有用感を高め、ちばの子どもに夢をもって育ててほしいという気持ちを込めて、ビジョン達成のためのプロセスである研究計画の名称を「ちば夢プラン」としました。

この「ちば夢プラン」は、国や県の教育施策と、千事研と各地区が築き上げてきた中期研究計画を基礎とし、これからの様々な課題に対して、組織はどのようにあるべきか、その組織に必要な人材、人材育成はどうあるべきかを常に追究します。そのため、これまで研究の柱としていた「組織開発」「人材育成〈学び続ける事務職員〉」を研究の視点とします。

また研究目標を「地域とともにある学校づくりと学校事務」として、千事研ビジョンにある目指す学校像や学校事務、事務職員像の達成に向け研究を推進します。

「ちば夢プラン」では、子どもの学びを学校・家庭・地域が創造する「社会に開かれた教育課程」の実現に向けたこれからの学校像、学校事務機能、そこに果たす事務職員の役割等をさらに追究します。

また「ちば夢プラン VOL. 1」は、地域との協働の第一歩を踏み出す段階（理解や周知、学ぶこと）とし、「予測困難な時代を生きていく子どもたちが、社会の中で活躍していくため、社会全体で子どもの育ちや学びを考える」「地域とともにある学校づくりとして、地域人材や経営資源の活用による地域協働・地域連携の形を考える」「それぞれの主体が、当事者意識の醸成を図り、社会に開かれた教育課程の実現、経営資源の活用による高度な教育活動の展開へつなげる」をねらいとし、「地域協働」「共同実施・学校間連携」「財務マネジメント」「人材育成(人づくり)」を研究課題とする4年間とします。

### 3 研究課題の設定

研究目標である「地域とともにある学校づくりと学校事務」を具現化するためには、課題を明らかにするとともに、その手立てを具体的に表し、行動することが重要となります。

「ちば夢プラン VOL. 1」では、その手立てを研究課題として年度ごとに明確にし、研究を推進していきます。また、それぞれの課題は単独ではなく、相互の関連性を踏まえ研究を推進します。（別表）

#### （1）地域協働

「地域協働」は、「地域とともにある学校づくり」に不可欠な手立てです。学校・家庭・地域が連携、協働し、子どもが主体的に生き抜く市民へと成長するように、どのような支援が必要かを考えます。その中で、学校事務機能の在り方や事務職員が担うべき役割やその位置づけのための制度についても研究を推進していきます。

県内ではコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の導入や地域学校協働本部の整備が、徐々に進められています。県内の実態調査や先行事例・好事例の特色などから、学校の組織として求められていることと事務職員の職としての役割について探究します。

#### （2）共同実施・学校間連携の役割

地域協働を持続可能な取組にしていくためには、組織として継続した取組をしていくことが重要です。そして地域協働における学校事務機能を強化していくには、共同実施・学校間連携での組織としての取組が重要となります。

地域協働や子どもの9年間の学びを支援するには、現在までの共同実施の在り方を振り返り、共同実施の必要性を考えていくことが重要だと考えます。例えば、共同実施が情報収集発信の拠点となったり、各運営協議会の予算管理をしたり、会議日程などのタイムマネジメントをすることなどの業務も考えることができます。共同実施で地域全体を俯瞰して見ることで、学校

内での役割や地域と学校をつなぐコーディネーターとして、事務職員として地域協働においての役割が明確になると考えます。また、平成 29 年 3 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正」により共同学校事務室が制度化されています。今後、共同学校事務室についても研究を推進していくことが必要だと考えます。

### (3) 財務マネジメント

地域とともにある学校を実現可能なものにするためには、人・もの・金をはじめとする経営資源の充実が重要であり、経営資源をいかに調達しマネジメントするのは、行政職としての事務職員の専門性を発揮する重要な役割です。その中で、財務マネジメントはとても重要であり事務職員としての専門性を大きく発揮できると考えます。計画性を持って学校づくりを実施していくには財務は欠かせない要素です。

財務マネジメントを通して、カリキュラム・マネジメントの活性度などの学校経営の「見える化」をし、管理職や教員と共有しながら必要なリソースは何かを見極め提案し、積極的に発信し行動に移すことで、地域とともにある学校の実現に参画できると考えます。

### (4) 人材育成（人づくり）

地域協働では、学校・家庭・地域が連携、協働することで様々なつながりが生まれます。それにより新たな関係性が生まれ、互いが学びあう場面もあり、人づくりに結び付くと考えます。

学校内外の多様な人材が、それぞれの専門性を発揮していくチームとしての学校を目指していくため、事務職員の知見・専門性を高め業務改善・管理職との連携を図っていくことが必要となってきます。事務職員が専門性を発揮していくためにも、ライフステージに応じたキャリアを具体的にしていくことが重要です。千事研モデルとして提示してきた「事務職員の職におけるライフステージの到達目標と主な研修項目」の見直しを図り、つかさどる事務職員としてライフステージに応じた職務や専門性を明確にすることで、力量形成や資質向上を制度や研修として確立していくことが重要です。

以上の研究計画・研究課題に基づき研究を推進します。

### (別表)

ちは夢プラン研究計画		研究の視点		
研究課題	研究年度	研究内容	組織開発 人材育成	
地域協働	令和 2 年度	・千葉県としての地域協働の姿の探究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域」とのつながりをどのような組織体制にするか。</li> <li>・校務分掌の在り方は、どのようにあるべきか。(型)</li> </ul>	
		・地域協働における学校事務機能の在り方		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協働に必要な力量とその形成方法について考える。</li> <li>☆研修体系の見直しをする。</li> <li>学校事務をつかさどる事務職員としてのキャリア形成の在り方について考える。</li> </ul>
職務の見直し				
共同実施 ・学校間連携	令和 3 年度	・地域協働における共同実施の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とともにある学校づくりにおける共同実施の業務内容と組織体制は、どのようにあるべきか。</li> <li>・組織として地域とつながるには、どのような体制づくりが必要か。</li> <li>・持続可能な取り組みを行うための組織づくりをどのように行うか。またそのための校務分掌はどのようにあるべきか。</li> <li>・他の共同実施組織間のつながりはどのようにもつか。</li> <li>・市政とのつながりをどのようにもつか。</li> </ul>	
		・学校間の連携による地域協働の活性化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成指標を作成する。</li> <li>・共同実施のリーダーシップの在り方について考える。</li> <li>☆研修体系の見直しをする。</li> </ul>
財務 マネジメント	令和 4 年度	・学校づくりにおける財務マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもいをかたちにする。</li> <li>共有した目標を実現するための経営資源を調達する組織とは、どのような組織か。</li> <li>経営資源を最大限に活用する組織の在り方とはどのようなものか。</li> <li>・GIGAスクール構想による子どもの学びの変化に対応する組織の在り方は、どのようなものか。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントにおける事務職員の役割とは何か。</li> </ul>	
		・事務職員の専門性を生かした協働の在り方		☆研修体系の見直しをする。
人材育成 (人づくり)	令和 5 年度	・学校・家庭・地域における人づくりと人材育成への関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務遂行をすることで力量形成ができる(する)組織の在り方とは、どのようなものか。</li> </ul>	
		・つかさどる職としての専門性の明確化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校事務を「つかさどる」ことによる意図的な人材育成・キャリア形成の在り方とはどのようなものか</li> <li>・同職種、他職種と「学びあう」ことによる力量形成について考える</li> <li>☆ちは夢プランVOL1 の研修体系を完成させる</li> </ul>
		・研究計画のまとめ		